

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立向陽高等学校	松本 泰幸
学校所在地		
(〒 640 - 8323) 和歌山県和歌山市太田127 Tel 073 (471) 0621 fax 073 (471) 6163		
担当者名		役職名・担当教科
亀岡 靖典		特別活動部 英語科
〔学校の概要〕 令和 7 年に創立 110 周年を迎える歴史と伝統のある学校で、地域の進学校の 1 つである。平成 18 年度より文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定校となり、理科・数学等に重点を置いたカリキュラムの開発と実践を行い、令和 5 年度より SSH 指定校第Ⅳ期に入り、生徒の新しい学びにつながる「探究型授業」や「教科横断型授業」の研究に取り組んでいる。また、国際交流活動も活発に行っており、イギリスと台湾にある海外姉妹校との交流を通して、国際性の向上と異文化理解教育を推し進めている。本年度は教育重点目標の 1 つとして、学校外でのボランティア活動等に積極的に参加することを奨励している。生徒達が体験を通して、視野を広げ多様な考え方を学ぶことで、市民性を涵養し社会に貢献できるよう育成に取り組んでいる。		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 1, 2 年生 2 7 名	1 0 名 職員 5 名	本校（多目的教室、図書館）、熊野古道館、熊野古道中辺路
実践研究テーマ		
“道普請” ボランティア活動を通した世界遺産の魅力発信と環境保全		
実践分掌等名	学習内容 単元名	
特別活動部 英語部 JRC部	世界遺産 道普請 英語発表 英字新聞 環境保全や観光に関する課題研究	
〔キーワード〕 ボランティア活動、環境保全、文化遺産、英語		
〔目標〕 向陽高校特別活動部によって企画された「熊野古道研修」で、英語部と Junior Red Cross 部（青少年赤十字ボランティア部）の部員と 1、2 年生でボランティア等に関心がある生徒を対象に「①世界遺産熊野古道を実際歩いて、②道普請を通して文化遺産の保護・保全の意識を高め、③その遺産の現状と魅力を英語で発表する機会を与え、④国際性を持って社会に貢献できる生徒の育成」を研究テーマに世界遺産教育を実施する。環境、観光、文化、社会貢献等をテーマにして、科学的な視点から課題研究や探究活動を行い、英語発表や成果発表を行うよう指導する。英字新聞を製作し、議論しながら保全に対する考えや自分たちの役割を文章にし、世界に発信する。		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕 全体 23 時間 研修前事前学習・2時間、道普請・1時間、参詣道ウォーク（中辺路）・2時間、事後学習・1時間、研修後世界遺産特別講演・1時間、英字新聞製作・6時間、成果物作成・6時間、成果発表・4時間		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 和歌山県地域振興部観光局観光振興課世界遺産班 「保全活動と道普請」資料提供および情報提供 和歌山県教育委員会生涯学習局生涯学習課世界遺産班 パンフレット資料提供 和歌山県世界遺産センター 「世界遺産学習ノート」教材提供、参詣道ウォークと道普請の実施 向陽高校の文化講演会で「世界遺産登録 20 周年記念講演」の実施		

実践校に関する事項			
〔指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習	評価方法等
1	10月11日（金）世界遺産について	世界遺産の一般知識についてFormsでアンケートを取り、その後、観光パンフレットと学習ノートを活用し、世界遺産の概略と和歌山の世界遺産を学ぶ。	知識・技能
	10月21日（月）道普請について	現地研修で何を学ぶか等目的の確認をし、道普請の意義と他の学校や企業による道普請の取り組みを学ぶ。	主体的に学習に取り組む態度
2	10月22日（火）次世代育成事業 現地研修	熊野古道館見学と滝尻王子付近を散策する。 県世界遺産センターの職員の指導の下、道普請を行う。 世界遺産マスターの説明を受けながら、熊野古道中辺路を歩く。	思考・判断・表現
	10月24日（木）現地研修振り返り	現地研修後、振り返り感想文800字程度の作成をする。	
3	11月6日（水）次世代育成事業 世界遺産登録20周年記念講演	県世界遺産センターの職員の講演を聴き、世界遺産の保全の大切さを学ぶ。振り返り感想文の共有を行う。	思考・判断・表現
	11月9日（土）県総合文化祭英語発表会	現地研修での学びを、「One Step to the Global Citizenship - 国際人になるための第一歩」と題して、Power pointで発表する。	
4	1月24日（金）英字新聞製作	道普請と参詣道ウォークを、英字新聞にして世界に発信するため「Kumano Kodo Repairs - 熊野古道と道普請」として作成する。	思考・判断・表現
	1月31日（金）向陽SSH成果発表会	Kumano Kodo Repairsを学校内でポスター発表する。	思考・判断・表現
	3月3日（月）次世代育成事業成果物展示会	世界遺産熊野本宮館で、他校の成果物とともに展示してもらう。	
5	3月18日（火）英国研修での発表	熊野古道の魅力と向陽のボランティア活動をイギリスのダートフォード市長訪問の際、ポスターを使って、口頭発表する。	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
	3月22日（土）第8回英字新聞甲子園で発表	環境保全活動と参詣道ウォークに関する英字新聞製作で学んだことや苦労したことをパワーポイントで口頭発表する。	思考・判断・表現
〔学習の成果と課題〕			
【成果】 次世代育成事業を通して学んだことを学校内外さらに国外で発表し、世界遺産の魅力を発信し、環境保全活動の普及するための一助を担うことができた。具体的に、学校内でのSSH成果発表会でのポスター発表と海外研修先での口頭発表と英字新聞による世界遺産の啓発活動のみならず、イギリスではボランティア活動に関する意見交換を市長と行うことができた。今回特筆すべきことは、道普請ボランティア活動を英語で発信しその重要性を評価されたことで、生徒達は保全活動の価値をより深く実感し、今後の保全活動の担い手としての自覚を持つことができた。また、現地研修中インバウンドや熊野観光の特色に注目した生徒は、そのマーケティングを探究する事に繋がった。 【課題】 今回の実践は、特別活動部が主導で企画したため参加者が限定されていた。今後クラス単位や総合的な探究の時間（向陽文系KECRe）で熊野古道研修を提供したり、カリキュラムに取り入れられると、より多くの生徒達が教育効果を得られると考える。また、世界遺産学習をSDGs講演や国際交流や成果発表会とよりうまく繋げて系統立てて指導をできるようにし、よりよい世界遺産学習の可能性を探る余地がある。			
〔世界遺産学習の効果〕			
今回の道普請の環境保全活動は、和歌山の世界遺産の魅力と保全の必要性を“誰”が“どう”広めるのかという問に対し、高校生が重要な役割を果たすことができると生徒達が実感する非常に良い機会となった。和歌山県民としての自覚や保全に向かう意識に変化があり、新聞、ポスター、インターネットでの動画等、色々な媒体を通して発信したり発表したりできる能力が、高校生にはあることを示すことができた。ボランティアの意識、世界遺産の普及、表現力の高い生徒が生まれ、ユネスコの無形文化遺産に興味を持った生徒は「那智の田楽」や和紙「高野紙」の調査を行い、それらの保存に関する内容を国際フォーラムで英語発表行うことになった。向陽高校においては、次世代育成事業が様々な形で教育的波及効果を引き起こす研修となった。			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
現地研修を含む世界遺産学習を1回きりの経験だけに終わらせず、継続する必要がある。他の高校生に向けた世界遺産学習の取り組みの紹介や、体験学習の重要性を広めることができればよいと考える。体験を共有し広めるように、高校生ボランティアや世界遺産ヘリテージレンジャー活動や、道普請を行った学校間によるカンファレンス、道普請フォーラムのような機会を作ってみてはどうだろうか。また、今回向陽高校が行った英字新聞制作では、生徒達が議論しながら考えをまとめる経験や他者を考慮したコミュニケーションの重要性を考える機会があった。世界遺産学習に何か別の教育的要素を加味し、生徒達がよりアクティブラーニングできるよう意図的に工夫していくことができればと考える。			

様式 2

令和6年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書

学習記録・活動写真]

①令和6年10月24日（木）向陽高校「熊野古道研修」現地実習後の感想文のまとめ

【2 年・普通科】

世界遺産を軸に様々なものの見方ができる

今回、世界遺産について学ぶ機会、またボランティア活動に参加する機会があるということで興味が湧き、参加してみることにしました。また、熊野三山の内、那智大社と速玉大社は以前訪れたことがありましたが、本宮大社のみ訪れたことがなかったので、今回の研修で訪れることを知り、三山すべてお参りできる機会でもあったことも参加した理由の一つです。実際現地で感じたのは、日本人観光客がほとんどいないことです。そこにいたのは外国人観光客ばかりでした。日本人が自身の国、地域の世界遺産をあまり訪れていないというのは、もちろん残念なことではありますが、熊野側とすれば逆に神秘的なものの雰囲気慣れているし、日頃から自然に神を宿すことになっている日本人に熊野古道を売り込んでもあまり効果がないと見込み、あえて前述のようなものにあまりなじまない外国人に熊野古道を売り込む方針で世界遺産の盛り上げをはかっているのではないかと感じました。インバウンドにより外国人が大勢訪れている今、外国人向けに魅力を打ち出し、現地で外国人の消費を増やし世界遺産の保全にあてているのではということも友達との会話で気づけたこともあり、世界遺産を軸にさまざまなものの見方ができるのが面白いと感じました。僕は JRC 部員で清掃活動等のボランティア活動を学校で行ったことはありますが、今回熊野古道の現地で行った道普請では自分たちの活動が世界遺産の一部を構成するという非常によい経験ができて楽しかったです。全体として、多くの学びや気づきがあり、世界遺産への関心をより一層深められました。今後自分の進路に是非活かせるようにしたいです。



観光マーケティングの効果

私は今回の研修の際に、熊野古道で少し前から行われている観光のマーケティングについて学ぼうと考えていました。実際にこの研修を通して、マーケティングの効果が顕著に表れていると実感しました。マーケティングで行われていた施策として、今回素晴らしいと思ったことがあります。それは、「観光客のターゲットを狭めたこと」です。一見、観光客を減らしてしまいそうに聞こえますが、実はそうではないのです。熊野古道は長年、リピーターが少ないことに悩まされていて、利益が上げられず、道の修繕すら難しくなりそうな状況でした。しかし、欧米などの聖地を巡るのが好きな人たちをターゲットにし、それに合わせた設備を整えてきました。一例を挙げると、熊野古道の英語での呼称をすべて統一したことです。昔は呼称が5つ、6つあったものを1つにすることで外国人にわかりやすく表記しました。その他の呼称もすべて1つに統一したことで、集客力を上げる事に繋がったのです。実際に歩いているとそのような方が多く、英語を見てもすべて統一されていました。以前、両親が熊野古道に行った際にはほとんど人がいなかったそうなので、その効果は絶大だったのだと実感しました。観光客に関して、よく和歌山県人より外国人ばかりなのは何事だとおっしゃる方がいますが、私はこの戦略、方針に賛成です。客が増えることで資金が集まり、世界にあまり例のない貴重な熊野古道の保全に繋がります。道の修復等だけが保全のように見えますが、陰でこのような活動が熊野古道を支え、未来へ受け継がせているのだと実感しました。僕も将来、マーケティングを通して、観光地を活性化していきたいと考えているので、

今回は非常に貴重な実体験を得ることができました。このような観光と保全の推進の背景を、是非他の人々にも知っていただければと思います。

これからの熊野の観光

和歌山の世界遺産について学ぼうと思い参加しました。実際現地に訪れることで、昔の人々が思いを馳せた熊野という地の神聖さや趣などはもちろん知ることができました。しかし、それ以上に、熊野古道を訪れる人々のほとんどは外国人観光客であったことに衝撃を受けました。熊野古道は確かに世界遺産ではあるものの、京都や奈良などの国内外から常に人気を誇っている場所よりは有名ではないだろうから、マニアックな日本人しか行かない場所だと私は思っていた。予想と現実とのギャップに驚きを感じながら、「このままでいいのだろうか？」と考えた。もちろん誰も来ないよりは誰であろうと観光に来てくれる方がよいのだが観光は娯楽であり、不況になると人々は観光を控え観光業は痛手を負う。そして、外国人観光客がターゲットになると、景気は国家間で連鎖的に波及していくため、当然不況によるダメージは大きくなる。また、日本の観光地である以上、日本人がもっといてもいいのではないかと思った。外国人が日本を好きでいてくれて訪れてくれることは日本人として喜ばしいことではあるが、自分たちもまた日本を好きになるべきだろう。そのために国主導で観光業を盛り上げ、今後、日本人に焦点をあてた旅行をもっと普及させる必要があると思いました。

道普請と観光

私は、観光学と熊野古道に興味があり今回の研修に参加しました。今まで、熊野本宮大社には訪れたことがあったけれど、実際に熊野古道を歩いたことはなくて、ずっと行きたかったのでいい機会になりました。「道普請」についても初めて知って、実際に土を運んでみてどうやって現代まで熊野古道が保存されてきたかを学べました。自分たちがしたのはごく一部で、これを熊野古道全体にするのは考えられないくらい大変だけれど、それでも熊野古道を残していきたいという思いがあり続けるから今の形があるんだなあと考えさせられました。また、すれ違う観光客のほとんどが外国人の方で、世界中から和歌山に来てくれていると思ううれしくなり、もっと魅力を伝えたいという気持ちも高まりました。世界遺産マスターさんにもいろいろな話を聞けて、世界遺産についての興味も今まで以上にわいて、もっと自分でも勉強してみたいと思いました。ボランティアはほとんどしたことがなかったけれど、観光学部への進学に対するモチベーションも上がり、普段関わりが少ない他学年の生徒や他学科の生徒とも仲良くなれて、自分にとってプラスのことばかりだったので、これからもこのような学校が提供してくれる研修に積極的に参加して、たくさん経験や知識を積んでいきたいと思います。

道普請とボランティア

英語部での取り組みとして、今回熊野古道研修に参加しました。おかげで、興味を持ち、研修で少しでも多く熊野古道のことを知って、和歌山に住んでいる人として、より多くの人に魅力を伝えたいと思い、この研修に参加しました。熊野古道館で歴史資料を見たり、実際に行って歩いたりすることで昔から続いている和歌山の歴史の一部を見て感じることもできたので、とても貴重な経験だった。また、ボランティア活動として行った道普請では、これから歩く人たちのために思いながら熊野古道の補強修繕できたことが、小さいことながらも今までに味わったことがない達成感があってよかった。今回の活動を通して、より多くの人に和歌山の魅力の1つである熊野古道について知ってもらいたいと思った。

【2年・環境科学科】

ボランティア活動と保全活動

私は以前家族と高野山に行ったときに「和歌山にもこんな歴史的な建物があるんだなあ」と驚いた覚えがある。高野山にずっと行きたいと思いながらそれまで機会がなかったのも、いろいろ見学するのがとても楽しかった。その時に、地元の他の観光地にも

行ってみたいと思っており、今回、ボランティア活動も含めて、研修で熊野古道に行くことが出来ると知って、強く参加を希望しました。実際の熊野古道は想像していたよりも自然になじんだ山道で、昔、車が流通するまでは人々がたくさん行き交う道だった事が信じられない程険しく、舗装された道よりずっと歩きつらかった。それもそのはずで、今回私たちがした保全活動と同じように、木の棒の杵と固めた土でできているという、昔ながらの道が今も残されているのだ。世界遺産に登録された場所を訪れてボランティアをしてみて、この遺産をさらに長く残すために、道の状態を守って行かないといけないと思った。

保全活動

熊野古道の保全活動に参加してみて、普段きれいだなぁと思って見たり行ったりしている世界遺産、中でも自然的なものが人の手によって後世に伝えていくために様々な工夫を凝らして保たれていてすごいと思った。また、保全に使う土も先代のものとは違うもので、どこを保全したのかわかりやすかった。今回、私たちは30人で1人3～5往復して、2,3段しか保全できなくて、その保全の大変さがわかったし、受け継いでくれていることによって、きれいで大きな自然を感じられてよかった。熊野古道は昔の人にとっては今の私たちでいう高速道路的な役割だったみたいで、標識となるような石に、〇〇に行くまでの距離を示していて、熊野から高野山や紀三井寺までいくことを想像するとあまりの遠さに驚いた。また、世界遺産マスターの方の話がわかりやすく、山に水の通り道を作ることと土砂災害から守ろうとしていたり、がたがたしている道を石板にしたりと、普通に山を登っているだけでは気がつかないようなことを教わって、視野も広がった。私が目指す仕事は、今回の研修と直接的な関わりはないけれど、見えないところで人知れずボランティア活動をする大切さを学んだ。



日本の文化の尊さを感じた

私は下津に住んでいるので、熊野古道は身近でそこまで大切なものだという認識はありませんでした。でも、今回この研修に参加したことで、熊野古道が今までどれほど大切にされ、たくさんの人の手によって守られてきた素晴らしいものなのだと分かりました。その素晴らしい熊野古道に、「道普請」という形で私もこの遺産を守る一員になれてすごく貴重な体験ができた。熊野古道を実際に歩いてみて感じたのは、外国から来られた方が非常に多いということです。日本の文化の尊さを世界中の人が興味を持ち、観光に来ているのだと分かりました。そんな遺産がある和歌山県で過ごしてきたこれまでの日々も世界の人々にとっては私と違う感覚があるのかもしれないと知りました。もっと熊野古道の良さを伝えるために今回の研修で学んだことをいろいろな人に伝え、一緒に受け継いでいきたいと思いました。

伝統的な道具を使用した道普請

私は以前から人々の文化や伝統などに興味があり、今回の研修に参加しました。そのため、熊野古道を本来の状態を保つ手伝いをしたことや昔の人がたくさん通った道を実際に通って、本宮大社を参拝したことは私にとってとても貴重で、すごくよい経験が出来たと思います。今回の研修で特に印象に残っているのは、熊野古道に継ぎ足した土を固めるときに聞いた話です。雨などによって削れていく道を本来の状態、つまり昔の状態へ戻すために、土を足すだけでなく土を固める道具も昔から使われている「た

こ」というものを使っていると聞いて、ただ世界遺産を守るだけでなく、修復作業を受け継ぐのに細かいところまでこだわっているんだなぁと驚きました。このことは研修に参加しなければ、この先も知らないままだったことを思うと、研修に参加し道普請を体験できて本当によかったと思いました。



社会貢献とは何か考えるきっかけに

悠々の歴史を通して保護されてきた熊野古道という古いものが、現代社会において世界遺産に認定され、どのように次の世代に受け渡されるかという人文社会科学的視点で観光地を見つめなおし、自らの生地である和歌山、ひいては地球規模で人類について考えるため、この研修に参加しました。世界遺産に限らず人類の文化は幾世代にも渡って受け継がれてきた。自らも社会に出ることを通して、直接または間接的に文化、技術を引き継ぎ、さらに発展させて、次の世代に遺すという文明社会の発展に欠かせない事業の一端を担う自覚を得ることができた。さらに、自らに直接的な利益が生じるわけではない活動を他者のために進んで行うボランティア精神の名において、平常時あるいは非常時に個々人が果たすべき役割について考えを巡らすことができた。今回の研修で学んだ人類の営みの一部分をきっかけにして、社会貢献とは何かについて、さらに学びを深めていくとともに、社会に対して自らアプローチしつつ、周囲に対しても働きかけが行えるような人材を目指して教育を受けていきたい。

熊野古道に対する見方が変わった

今回研修に参加した1番の理由は、友達と世界遺産について学べる機会があることでした。2つ目は、やはり和歌山県人として和歌山の世界遺産について、実際に現地に行って理解を深めようと思ったからです。研修を通して、熊野古道に対する見方が変わりました。すれ違う人の大半が外国人で、昔も東北の方から人がよく来たりと、とても多くの人を魅了してきたんだなぁと実感しました。熊野古道は山の中の道で空気がとても新鮮で自然を感じることができました。昔の人も同じ道を歩いていたと考えるととても感慨深く思いました。そして、土を運んで道を補修して、環境保全活動に貢献できてうれしかったです。今後も、和歌山県民として、和歌山県以外の人たちにも自信を持って語れるようにもっと和歌山について知りたいと思いました。

熊野古道と保全活動

小さい頃から高野山が好きで、その流れで「紀伊山地の霊場と参詣道」および熊野古道に興味を持つようになりました。本宮大社には行ったことがありましたが、実際に古道を歩いて本宮大社へ向かったことはなく、一度経験してみたかったです。今回一緒に行ったメンバーの中では、熊野古道について熟知している自信がありましたが、世界遺産マスターさんの話は、自分が知らなかったことばかりで、とても有意義でした。また、道普請も行って見たかった活動です。和歌山にはたくさん史跡があります。これらを守ることは和歌山にある遺跡を守るだけでなく、歴史やその背景になる学術的意味を失わないようにすることです。世界遺産

マスターの方に教わったことを伝え続けられるよう自分でも熊野古道について発信し、積極的に保全活動に参加したいと思います。



道普請と熊野古道ウォーク

今まで世界遺産について詳しく学んだことがなかったので、この機会に学びたいと思い今回研修に参加しました。保全活動を行ったり、熊野古道の話を聞いたりして、熊野古道への理解が深まり守って行くことの大切さを知った。まず、保全活動の一つである道普請というボランティアに参加した。年間を通じて雨量が多いため参詣道の土はしばしば流出する。また観光客も多いため、道が削られていく。熊野古道は世界遺産のため、コンクリートなどで固めることはできない。だから人の手で土を固めて行く必要があるそうだ。熊野古道という世界遺産を守るために必要なことだと身をもって分かった。そして、土を運び固めるという作業なのでとても簡単だった。誰でも出来るのもっとこの活動が広まればよいと思った。また、熊野古道の話を聞いて詳しく知ることができた。途中、「六根清浄」をみんなで歌いながら山道を歩いた。そうすると呼吸が出来てリズムに乗ってどんどん進めて本当に楽になった。昔の人が生み出した知恵はちゃんと理にかなっているのだなぁと思った。また、神仏習合になっていたり、たくさんの方が修行にきていたり大切な場所だということが分かった。今回の研修で熊野古道を世界遺産として守っていく事の大切さが分かった。また、海外の人ともたくさん来ていた。和歌山出身として伝えていけるようにこれからも学んでいきたい。



道普請と保全活動

熊野古道研修を終えて、世界遺産である参詣道について知るよい機会となった。熊野古道は家の近くにも通っており、名前は知っていたが、実際に参詣道を歩いたことがなかったため、今回の研修に参加してよい経験になった。研修のメインとして中辺路の一部を道普請した。世界遺産として価値のある道を自分の手で修繕できることに感動した。このようにして、文化や歴史を繋げているのだなぁと感じた。その中辺路を実際に歩いて本宮大社まで歩いて向かったのだが、途中で木の根が浮き彫りになっていたりして、世界遺産として僕らが保護していくべきだと思った。これを機に、熊野古道や他の和歌山県の世界遺産の事についての知識を深めていきたい。

道普請とボランティア活動

今まで熊野古道に行ったことがなく世界遺産についてあまり、詳しく学んだことがなかったのでこの機会に参加することにした。この研修を通して、自然を守って行くことの大切さが分かった。世界遺産である熊野古道はコンクリートでかためるわけにはいかないけど、人が歩いたり雨が降ったりして削れてしまうから道普請をする必要があり、後世にも受け継いでいかなければならないと分かった。また、世界遺産マスターさんの話を聞いて、本宮大社が水害などの自然災害の被害に遭って今の場所に移されたことや神仏習合であることなど熊野古道について知れた。実際に、熊野古道を歩いて道普請が出来てよかった。これから和歌山県民として熊野古道について学んだことを伝えていきたいと思った。また機会があれば、道普請ボランティアに参加したいと思う。

道普請と世界文化遺産の保全

今回、熊野古道に行くのは初めてだったから、とても貴重な体験になった。道普請をした時に、今私たちが歩いている道も、代々作られてきたものだということを聞いて、世界遺産をみんなで守っていくんだという実感が湧いた。また、海外からの観光客の方も多くいらっしゃっていて、和歌山に世界に誇れる遺産があることに感動した。もっとインバウンド観光で和歌山が栄えてほしい。世界遺産マスターさんの話を聞くと、熊野古道がいかに神聖で伝統的に受け継がれてきたかが分かった。歩きながら歌を歌ったのも印象的でした。この研修を通して、伝統の継承の重要性を感じた。道普請もちろんだが、施設がきれいに整えられていることやガイドさんが多くいらしかったから、現在まで続く熊野古道の活動の理由を考えてみた。私は、昔から人々の近くにあり、それでいて神聖なものである熊野古道が代々人々の心のより所になっていたからだと思った。「珍しい」「きれい」ということだけが世界遺産になった理由ではなく、地元の人々との長年の関わりにも大きな理由があると思う。近年、人々は自然や伝統から離れつつあると感じるが、伝統をいかなる形で継承することが不可欠であると思う。技術の進歩だけに目を向けるのではなく、昔ながらの日本文化の美しさを広めたい。和歌山県民としても日本人としても素晴らしい経験をする事ができた。



道普請と世界遺産学習

和歌山県民でありながら、熊野古道を全然知らなかったのが、今回の研修に参加した。いざ現地を歩くと多くの気づきがあった。まず驚いたのは古道に舗装がほぼないこと。昔の景観のまま残してきた人々の努力が感じられた。ただの道のようにみえても、石や地蔵で方向を示していたり、石を使って排水されるようにしているのを見て、先人の知恵のすごさを知った。また、すれちがう人々は外国人ばかり。多くの観光地の中、その地を選ぶ理由はなんだろう。外国人の多さの割に他言語の案内表示が少ないことが残念でした。今回、道普請を体験し、世界遺産マスターと歩くという貴重な体験をした。「何百年も前の道がここまで残っているのは本当にすごい。」と改めて思った。そして、この事を知らなかったのがとても残念だった。今、私たちは古き良きものを失いつつあるように感じることもある。道普請などを通して保全に関わることが出来たのはとても有意義だった。観光客が迷惑行為などで遺産を傷つけることはよくあることだ。だからこそ、自分はいろいろな人々に熊野古道を知ってもらい次世代へと守っていききたいと思う。実際現地に行くことや世界遺産マスターさんのように専門の知識を持つ方から学んで分かったことが多いので、これからも足を運んでもっと色々な事を知っていききたい。今後、和歌山といえば「熊野古道」と自信を持って言えるようになろうと思う。

【1 年・普通科】

熊野古道の体験を英語で

英語部に所属しているので熊野古道に関する英字新聞を書くために参加しました。今まで、世界遺産の熊野古道が和歌山にあるという知識があるだけでしたが、活動を通して熊野古道の歴史やそこで活動されている人の思いなどを学んで、もっと熊野古道について知りたいと思うようになりました。実際に熊野古道を歩いてみて感じたことは、やはり外国人観光客が多いことです。外国の人から見ても魅力的な熊野古道をもっと広めたいと思ったので、これから書く新聞は私の実感のこもった分かりやすいものになりたいと思います。

ボランティア活動としての道普請

今回の熊野古道研修に参加した動機は JRC 部として、学校の清掃活動だけでなくボランティア活動として熊野古道の道普請を試みたいと思ったからです。個人の目的は、和歌山県民なのに世界遺産である熊野古道を訪れたことがないのはおかしいと思ったので、一度は行って見て、熊野古道を知らない人にも説明できるくらいになろうと思ったことです。実際に行ってみて、石で作られた道標を見て、昔の人々はこの道を現在の国道のように使っていて、高野山や紀三井寺まで歩いていたことに驚きました。また、歩いてみて一定の間隔で番号が書かれた柱で、怪我をしたときに救急を呼ぶための柱を見て、熊野古道は安心して歩ける道だと分かりました。それから、道の途中にある水を流すための斜めに作られた水路を見て、昔の人々が作ったものがまだ残っているということは、昔の人々の技術は高いものだったと分かりました。この研修を通して学んだことをこれから外国人や知らない人に教えて、魅力を伝えられるようになろうと思いました。

【1 年・環境科学科】

世界遺産保全活動の繊細さ

小学生の時、修学旅行で熊野古道や那智の滝に行ったことがありますが、その時とは違い、今回は「世界遺産について学ぶ」という目的を意識していたので、様々なことを学ぶことができました。道普請では世界遺産の保存について学ぶことができました。熊野古道は人の手が入っていないが故に世界遺産に認定されたので、道の修復に用いる土も決まっていると説明を受けて、遺産保全の繊細さが感じられました。道には多くの「洗い越し」があり、これらは雨によって土が流れていき、道が傷むのを防ぐ工夫なので、世界遺産の保全には本当に多くの力が注がれているなあと感じました。午前中に訪れた熊野古道館では、「安珍と清姫」について調べられていた展示があり、とても面白かったです。今回の研修で少し驚いたことは、出会った人の多くが外国人観光客だったことです。世界に和歌山の熊野古道が認知されているのは、喜ばしいことですが、地元からの関心が薄くなっているのは残念なことだと思いました。

世界遺産と道普請

熊野古道は小学生の時に一度だけ行ったことがありました。和歌山県人にもかかわらず、和歌山の世界遺産について知らなかったことはたくさんありました。神仏が習合していること、熊野古道だけでなくその周りの人の生活もが世界遺産であること、熊野川の氾濫によって大斎原から今の場所へと本宮大社が移動したことなどです。知らないことを知ることができて本当によかったです。また、初めて道普請という活動をしました。大昔から続く道をできるだけ昔のままで残しておくために、土を入れて固めてくれていることを知りました。大変な作業だったけれど、誰かがいつもやってくれていることで、熊野古道を守っていることを知りました。そして、こういった活動を積極的にやっていって後世に残しておくべきだと思いました。また、熊野古道を歩いた際、「かけ念仏」というのを習いました。体を清め、懺悔すると同時に肺にたくさんの空気が入り、息がしやすくなることを学びました。昔の人々はこういった工夫をしながら熊野を訪れていたということを知ることができました。

道普請と熊野古道

今まで熊野古道を歩いたことがなく、どのようなところなのかその歴史も踏まえて学びたいと思い今回の研修に参加しました。想像していたよりも傾斜が激しく、特に道普請での土運びが大変でしたが、様々な人の手によって守られてきた熊野古道をこれからも大切にしていかなければならないと感じることができました。外国人の方々も多く、日本語で話しかけてくれるのが意外でしたが、この熊野古道という世界共通の遺産が人々を結びつけているのかもしれないと思いました。そして、この素晴らしい世界遺産をもっと県民の方々に知ってもらい、次世代へと受け継いでいく重要性を実感しました。今回の研修で和歌山に住んでいながらもあまり知識のなかった熊野古道について、県民として理解を深められたと思います。今後もこういった活動があれば、どんどん積極的に参加していきたいと考えています。

世界遺産の価値を広める

熊野古道の道普請というものを初めてやってみて、思ったよりハードだったと感じました。でも、県内外を問わず道普請をいろいろな人がやっているから、道が崩れずに綺麗な状態を保っているんだなあと思いました。熊野古道を歩いているとき、日本人の観光客よりも、外国人の観光客の方が多いと感じました。これには色々な理由があると思い、まず1つは、新型コロナウイルスの流行が収まってきたことだと考えました。もう一つは、日本の円安だと思います。この機会に、世界へ日本の素晴らしい世界遺産をもっと広めていくべきだと思いました。今回僕は初めて熊野古道を歩きました。自分の住んでいる県で、しかも世界遺産に登録されているのにもかかわらず初めてでした。なので、今回の研修は世界遺産に実際に触れられるとてもよい機会になりました。世界へ日本の遺産や文化を広めるのも大事なことだと思いますが、まずは自分たちが日本の世界遺産を知り、触れることが大切だと思いました。今回の世界遺産学習で、当時の人々の暮らしや風習を読み解くことができました。今回学んだことと和歌山県の歴史などを結びつけて、学習して今後へ活かして行こうと思います。



外国人観光客にも愛される熊野古道と道普請

僕は、和歌山県民でありながら、和歌山にある世界遺産熊野古道について、あまり詳しくありませんでした。事前の研修では、知らないことが多かったです。そこで、現地に行って話を聞いて、少しでも熊野古道について知ろうと思い参加しました。そこで感じたのは、本当に外国人が多いということです。正直わざわざ外国人の人々が来るのかなあと思っていました。しかし、実際は現地にいた人々はほとんどが外国人でした。僕はそれを見て驚きと同時に感動もしました。素晴らしい景色が広がり、伝統も感じる熊野古道は世界中で愛されているようです。そして、この景色は、昔の人たちから今に渡ってたくさんの人の努力があることもわかりました。僕たちも「道普請」という活動をして、道の修復作業をさせていただきました。約30人で5回程度往復したのに、修復できたのはほんとに短い距離でした。つまり、昔からほんとうにたくさんの人が何回もやっているのだと思いました。また、ボランティアで何かの役に立ってみたいと思いました。

熊野古道と観光

今回、この熊野古道研修現地実習を終えて、少し疲れたけれど普段行く機会のない熊野古道をあるくことができ、非常に貴重な経験になりました。僕は中学の頃から観光に興味があり、和歌山の最も人気のある観光地の一つとして以前から熊野古道に関心がありました。今回、実際に熊野古道を歩き多くのことを学びました。世界遺産に登録されている道は世界にたった2つしかなく、そのうちの一つが熊野古道であること。やはり外国人の観光客が多いということ。自然に影響を及ぼさない程度に人の手を加えて維持しなければならないということ。今回学習した事を活かして、将来の進路の選択として役立てようと思いました。

道普請の大切さ

神社やお寺に行ったり、御朱印をもらったりすることが好きで、田辺に行く機会がめったにないので今回の研修はよい機会だと思って参加しました。今回の研修で道普請を体験してみて、これを日々してくれている人々のおかげで熊野古道が守られていると実感しました。また、熊野古道を歩いてみて、江戸時代に作られた石畳がまだ現存しているということに驚きました。そして、熊野古道は和歌山県民の私でも歩いたことが無かったし行ったこともなかったのに、外国人の観光客の方が日本人よりもずっと多かったことにも驚きました。どこで熊野古道を知ったのか調べてみるのも研究になりそうだと思いました。今回の研修では道普請の大切さを学ぶことが出来たし、和歌山県民としてもっと和歌山について学ばないといけないと意識することができました。来年もこの研修があったら参加したいし、友達にも是非体験してほしいと思いました。

②令和6年11月6日（水）向陽高校図書館にて、世界遺産登録20周年記念講演に約50名の生徒が出席。



向陽高校図書館入り口の看板



和歌山県世界遺産センター職員さんによる講演

③令和6年11月9日（土）和歌山県総合文化祭英語発表会にて、「One Step Closer to Global Citizenship」というタイトルで、熊野古道研修で学んだ内容を含んだパワーポイントを使って、TED型プレゼンテーションを行う。



有田市文化福祉センターにてTED型プレゼンテーション

パワーポイント・プレゼンテーションから一部抜粋



The activity at Kumano Road



Repairing the road called "Michibushin"



Pilgrimage walk in Nakahechi area

④令和7年1月24日（金） 第8回英字新聞甲子園 1次審査用記事一部抜粋

別紙

⑤令和7年1月31日（金） 向陽高校SSH成果発表会で、ポスター発表をする。熊野古道研修の説明、向陽生による道普請の説明、英字新聞、及び研修に参加した生徒の感想文を展示発表しました。



向陽高校体育館の熊野古道研修成果発表・ポスター発表ブース

令和6年度 向陽高校の環境保全活動 “道普請”

【熊野古道での道普請の現状】

紀伊山地は、年間を通じて雨量が多く、豊富な水が雄大な自然を育んできた一方、これらの雨により、熊野古道の土の流出がおきています。また、増え続けている訪日外国人を含む観光客や参拝者のウォーキングにより、その土が削られていると考えられています。そこで、広大な「紀伊山地の霊場と参詣道」の資産地域（総面積約500ha、参詣道の総延長約350km）を継続的に保存するためには多くの人々の力が必要となっています。

和歌山県地域振興部観光局観光振興課の調べによると、平成21年4月から令和6年9月末まで約16年間の道普請の参加団体は660団体で、参加人数は38,506人と報告されています。企業のCSR活動として関西電力、花王、伊藤園等の企業が道普請をしている一方、教育活動として、令和6年度和歌山県内の小学校、中学校、高等学校を含めて8校が和歌山県世界遺産協議会の次世代育成事業を活用して、道普請を実施しています。

【環境保全活動 - 道普請の内容】

向陽高校は、今年度新しい取り組みとしてボランティア活動を推進するため、和歌山県世界遺産センターの職員さんと専門家の指導を受けながら、英語部と JRC 部とボランティア活動に関心を持つ生徒たち合わせて 27 名が道普請活動として、45 分程度傷んだ道の修復と補強作業を行いました。道普請の箇所は、三軒茶屋跡から伏拝王子に向かって約 150M のところで、土の量は 0.5 トンを全員で土嚢に土を入れ、保全場所まで土運びをしました。1 人当たり 3～5 往復して土を運んだ後、土を固めるための「たこ」と呼ばれる伝統的な道具を使ったり、足で踏み固めたりして、熊野古道のごく一部ではありますが道普請を実際に体験しました。

熊野古道館の見学



現地までトレッキング



作業前の熊野古道



土を土嚢袋に入れる



土嚢袋を運ぶ



土を入れる



土を固める



完成



作業後の熊野古道



⑥令和7年3月3日（月） 世界遺産熊野本宮館での、令和6年度次世代育成事業学習成果物の展示会に出品する。



世界遺産熊野本宮館・写真の右半分が向陽の学習成果物

⑦令和7年3月18日（火） 向陽高校の姉妹校との交流を含む英国研修のダートフォード市長訪問時、熊野古道の現状と高校生ボランティアについて発表をする。



英国研修ダートフォード市長訪問時での発表

☆熊野古道の紹介 → 世界遺産登録から20年、そして外国人の間で人気の観光目的地

My prefecture, Wakayama, is culturally rich. It has some popular destinations among foreign visitors. Today I would like to introduce Kumano Kodo to you. Kumano Kodo is a world-famous pilgrimage route which is nominated as a World Heritage site in 2004. It is said that Kumano Kodo in Japan is similar to Routes of Santiago de Compostela in Europe as a pilgrimage route. Kumano Kodo is a mountain road that remains in a good condition and was traveled by the imperial family and aristocrats in the past about 1000 years ago. Even now people can feel the passage of time and spiritual Japanese culture because of historic spots and religious events, so many foreign visitors can enjoy hiking there.

☆グラフで外国人観光客数の推移を示す

According to NHK, the number of foreign visitors who stayed in Kumano area is dramatically increasing from 82 in 2005 to 6067 in 2023. The survey of Kumano Tourism Bureau in 2024 (Sankei News Paper) shows that the largest foreign tourists are Australian and next is United States and the third is UK. Kumano Kodo has been somehow deteriorated because there is the heavy rain in Kumano area and many visitors walked along the road.

☆環境保全活動ボランティアをして学んだこと、世界遺産の普及・啓発の必要性について

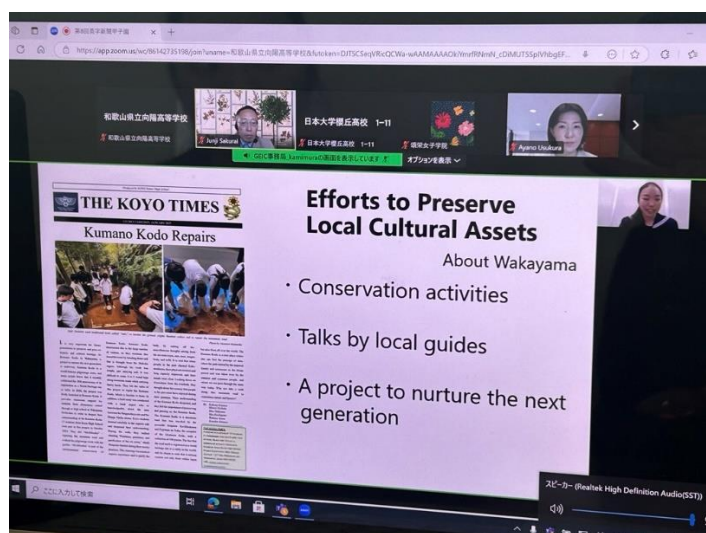
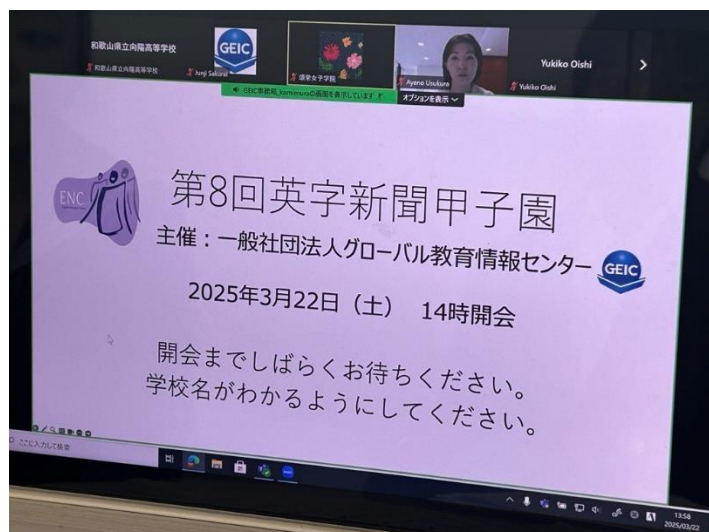
Now we need to consider the importance to keep the route as much as the same to pass down to the next generation. Last year we joined a special program to protect this cultural heritage site as volunteer activities. 27 students in Koyo took part in the project and repaired the pilgrimage route as a part of environmental conservation of Kumano Kodo. It is very important for future generations to preserve and pass on historic and cultural heritage. My mission is to have people know about what Kumano Kodo is and how important Kumano Kodo is. Therefore, I made a school newspaper to have my friends deepen the understanding of the cultural heritage. Now I make a presentation about Komano Kodo to spread the importance to you.

☆ダートフォード市長とボランティア活動に関して、英語でやりとりしてみる。

私たち向陽生がしたようにダートフォードの生徒達が何か文化や環境を守るためにボランティア活動をやっていますか。

- What kind of cultural heritage does Dartford have?
- What kind of volunteer activities do you (students in Dartford) do?

⑧令和7年3月22日（土） 第8回英字新聞甲子園 第2次審査用の動画原稿から一部抜粋



この新聞は、自分たちの身近なものや取り組みを紹介するというテーマで、前半は地元の文化財、後半は私たちが通う学校での取り組みを取り上げました。第一面では、私達が参加した熊野古道でのフィールドワークについて取り上げました。2024年で世界文化遺産登録20周年を迎えた熊野古道は、和歌山県が誇る文化遺産の一つです。私達は熊野古道の保全活動である道普請を行ったり、語り部さんのお話を聞いたりすることで熊野古道への理解を深めました。この体験を通して私たちが世界遺産を守る担い手であるということへの実感がわきました。また、この活動を新聞にすることで、地元の特に若い世代の方々に熊野古道での取り組みについて知っていただき、保全活動への意識を持ってもらう機会になればと思います。

・・・ 省略・・・

この英字新聞は、本校の新聞部と英語部が協力して作り上げる前例の無い形となりました。この新聞は私たちの身近なものの魅力を発信することがテーマとなっていますが、それを英語で書くことによってより多くの人に読んでいただけるようになったと思います。この新聞を作る過程で、私たちが最も考えさせられたことは「変化」についてです。新聞づくりを通して、文化財も学校も受け継いでいくためには変化が不可欠だということに気がつきました。記事にもあるように、文化財を存続させるためには保全活動が必須であり学校も時代の流れや新しい発想によって様々な取り組みが行われてきました。私たちは、その変化を後世に残していくこと、そして形が変わっても変わらない人の思いを受け継いでいくことが大切だと考えました。様々な情報が錯綜するこの時代に、新聞は私たちの変化を確かに記録し、残してくれるのです。変わっていく在り方、そして変わらない人の思い。その相異なる2つを新聞という形で残せたことを作成者一同嬉しく思います。